

校の先生、友だちは、ねないでかん病をしました。そのかいあってケサは、きせきの助かりました。このとき、ケサは、人のやさしきや神の愛あいを強く心に感じました。

ケサは、クリスチャンでしたから、

「人、その友のために生命いのちをす※すてるつる。これより大きな愛はなし。」

という言葉を中心の中にきざみつけました。そして、ライ病の人のために一生をささげる決心をしました。

ライ病は、ハンセン病ともいいます。その病気は、ノルウエーのハンセンという人が発見したからです。そのころの人はライ病におかされるとなおることのない病気だと思っていました。また、ライ病は「遺伝いでん」する病気だといやがつていました。だからライかん者のいる家では、人に知られないように遠くの病院に入院させたり、し設などに入れさせていました。

ライ病がひどくなると、ひふや骨をくさらせ、鼻がおちたり、目のまわりがく